

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

（分担研究報告書）

相談員用がん情報データベース基盤のがん種の拡張：相談員を対象としたワークショップの試行
そのがん情報、信頼していい？

～気になるがん関連サイトの相談員による評価会：信頼できるか見極める！～

研究協力者 小郷 祐子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部（専門員）
研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部（部長）
研究分担者 花出 雅美 がん研究会有明病院 がん相談支援センター（看護師長）
研究協力者 奥野 順子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部（看護師）

研究要旨

本研究では、「相談員が、確かな情報に基づく質の高い相談支援を、がん患者や家族等の相談者に提供できるようになること」を目指して、数多あるがん関連情報の中から信頼性の高い情報を見極める視点を学ぶワークショップを企画・実施した。がん関連情報の評価に対する知識や自信の変化を測定することで、当該プログラムの妥当性を明らかにすること、必要な改善点を導くことを目的とした。

ワークショップ前後にWEBアンケートを実施し、絶対量としての評価（参加前後の知識の比較）を行ったところ、情報の評価視点を意識する程度に変化が見られた。事後アンケートでは、他の参加者との相互作用によって学びが深まったという意見が目立った。

今回実施した参加型のプログラムは、情報を見極める力を相談員が高めていく上で一定の効果があると考えられる。しかし、相談員全体から見た時の波及効果は限定的である。ワークショップで得られた知見や合意をその場のみで終わらせず、より多くの相談員が活用できる形にしていくための検討が必要である。

A. 研究目的

本研究では、「相談員が、確かな情報に基づく質の高い相談支援を、がん患者や家族等の相談者に提供できるようになること」を目指して、数多あるがん関連情報の中から信頼性の高い情報を見極める視点を学ぶワークショップ（以下「WS」とする）を企画・実施した。がん関連情報の評価に対する知識や自信の変化を測定することで、当該プログラムの妥当性を明らかにすること、必要な改善点を導くことを目的とした。

B. 研究方法

2022年9月15日（木）16～18時に、オンライン形式でのWS「そのがん情報、信頼していい？～気になるがん関連サイトの相談員による評価会：信頼できるか見極める！～」を開催した。参加申込にあたり、WSの中で評価や議論を行いたいWEBサイトの名称を入力してもらった。複数の参加者から評価希望のあったWEBサイトを中心に、10のWEBサイトを事務局にて選定し、参加者各自がそれらのWEBサイト評価を予め行ってくることを事前課題とし

た。事前課題用フォームを別添1の通り用意し、信頼性の高い情報を見極めるために必要とされる一定の視点（以下1～5）を明示した上で、事前課題に取り組んでもらった。

- 1 情報発信の運営主体や発信者の立場を確認すること
- 2 情報の元となっているものは何かの記載（引用、文献等）を確認し、公正な発信か判断すること
- 3 他の情報と比べてどうか確認すること
（他の情報源や標準治療と比べてどうか、他の情報と比べた長所・短所の記載があるか等）
- 4 発信されている情報およびサイトの対象や目的を把握すること
- 5 情報の更新時期を確認すること

申込時に評価したいと希望していたWEBサイトが採用された方には、別添2のプレゼンテーションフォームを送り、そのWEBサイトをどのように評価したか等を、WS当日、短時間で発表していただくよう依頼した。（評価希望を挙げた方が複数いたWEBサイトについては、申込順で発表者を決定し

た)

また、がん関連情報の評価に対する知識や自信の変化を測定するため、事前課題実施前とWS終了後にWEBアンケートを実施した。(以下「事前アンケート」「事後アンケート」とする)

いずれのアンケートにも、上記5つの視点をどの程度意識しているか問う設問を設け、4件法で回答してもらった。(1. 強く意識している/2. ある程度意識している/3. あまり意識していない/4. 全く意識していない)

アンケート結果をもとに、絶対量としての評価(参加前後の知識の比較)と、関連要因比較(知識の上昇等の要素に関連する属性要因を群間で比較)を行った。

(倫理面への配慮)

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に準じて、研究対象者から同意を受けた。具体的には、本研究の意義、目的、方法、問い合わせ先について、募集要項上で明示した上で、研究協力者を募集した。また、WEBアンケートの冒頭部分で、研究の主旨、調査への協力は任意であり、研究に同意しなくても不利益を被ることがないこと、同意後の撤回も可能であることを説明し、回答を依頼した。WEBアンケートに調査協力への同意に関するチェックボックスを設け、記入がされたことをもって適切な同意が取得されたものとした。

C. 研究結果

(研究協力者の属性)

全国から28名の相談員がWSに参加した。職種の内訳は、看護師16名(57.1%)、社会福祉士11名(39.3%)、公認心理士1名(3.6%)であった。参加者は全員、国(厚生労働省)が指定するがん診療連携拠点病院に所属しており、地域がん診療連携拠点病院の所属者が多かった(85.7%)。また、従事形態は専従が多く(67.9%)、「相談業務で活用する情報について、相談員間で検討する機会がある」という方が21名(75%)いた。国立がん研究センターが主催する医療情報の評価や見極め方について学ぶ研修(以下、情報支援研修)を過去に受講したことがある方は10名(35.7%)、国立がん研究センターによる「認定がん専門相談員」の認定保有者は16名(57.1%)、「認定がん相談支援センター」所属者は9名(32.1%)であった。

(WS当日の流れとWEBサイト評価結果)

WS当日は、1サイトあたり10分の時間を設け、参加者全員で議論を進めていった。10分の内訳は以下の通りである。

- ・プレゼン担当者によるプレゼンテーション(2分)
- ・オンライン会議システム(zoom)の投票機能を使用し「このサイトを信頼できる情報源として承認するか(選択肢:賛成・条件付き賛成・反対)」を投票(1分)

- ・ディスカッション(7分)

事前課題をもとに、運営主体や情報元、標準治療との比較、サイト目的や広告の有無、更新状況等についての活発な意見交換が行われた。議論をふまえてのWEBサイト評価結果としては、「承認:2サイト、条件付き承認:3サイト、非承認:5サイト(計10サイト)」となった。

(アンケートによる前後比較)

事前アンケートでは、視点1は参加者全員が意識していたが、視点2~5は意識していない参加者も一定数(20~30%程度)いた。事後アンケートでは、視点1~5の全てにおいて、意識していないという回答はなくなった。

また、意識されている程度についても、事前アンケートでは「2. ある程度意識している」の割合が高かったが、事後アンケートでは「1. 強く意識している」の割合が上昇していた。対応のあるサンプルのt検定を実施したところ、視点2~5についてはWS前後で有意差がある($p<0.001$)との結果が出た。

認定がん相談支援センター未取得の施設に所属している場合や、「相談業務で活用する情報について相談員間で検討する機会がある」と回答している場合に、視点5の意識の程度が有意に強まっている等の傾向は見られたものの、意識の程度上昇に関連する明確な属性要因は特定できなかった。

(事後アンケートの自由記載)

WS受講により改善されたことを問う設問では、「一人ではなく、みんなで検索し共有することで、自分では見えなかった視点が広がり勉強になった」「自信を持って情報提供できるサイトはかなり少ない、相談員が患者情報に合わせて取捨選択する必要がある、条件付きで提示可能であるということを実感した」などの意見が見られた。

情報評価について残っている不安を問う設問では、「今回のような評価が自施設で出来るとよいが

難しい」「運営主体を深く知ることが難しい場合がある」「条件つきで利用可能と判断した場合、自身の判断に不安を感じる」「ウイッグや下着のパンフレットも送付されてくるがどこまで紹介してよいか迷う、またピアサポート団体の情報の整理もできるとよい」などの意見が見られた。

WS全般についての意見を問う設問では、「スムーズな進行で、あっという間の2時間だった。みんなで情報を見つめ直すことがとても有意義だった」

「WEBサイトの評価は、ひとつひとつ、もう少し時間をかけても良いと感じた」「一番知りたかったサイトの検討ができず残念だった」「全体のスケジュールが分からないため不安であった」などの意見が見られた。

D. 考察

研究協力者の属性情報から、またWS当日の参加者の自発的な発言の多さや、語られる評価の根拠などから、信頼性の高い情報を見極めることに対する参加者の意識の高さが感じられた。今回、そのような集団であっても、WSを通じて情報の評価視点を意識する程度に変化がみられていた。

また、事後アンケートの自由記載では、他の参加者との相互作用によって学びが深まったという意見が特に目立った。（「自信のなかったものについて、参加者の皆さんの意見を聞くことで整理することができた」「10サイトを見ていくなかで、自身の情報の見方や評価基準の変化を感じた。また、他の人の意見を聞き、新たな視点への気づきがあった」等）意識の高い層が参加しており、交わされる議論の内容、視点、観点も充実していたことが、学びの深まりを促進した最大の要因と思われるが、各サイトのディスカッションに入る前に、参加者を代表して1名の方にプレゼンをしてもらう形をとっていたことも学びを深める要因として機能したのではないだろうか。他者の考え方との比較によって、自分が意識できていること、できていないことを確認する機会となっていたのではないかと考えられる。

これらの結果を踏まえると、今回実施したWSのプログラムは一定の効果があると考えられる。しかし、どの程度学習効果が持続しているか、日常業務（個別の患者・家族支援）の質が変わったか等については測定できていないため、妥当性を評価するにあたってはさらなる検討が必要である。

また、事前アンケートでは、「相談業務で活用する情報について、相談員間で検討する機会がある」

という方が75%と多かったが、事後アンケートを見ると「がん相談支援センター内での話し合う時間がなく、研修だとじっくり関わられるため、今後も研修という形で学ぶ機会があるとよい」「情報源の評価は相談員として大切な業務の一環であると所属機関にも理解してもらう必要がある」等の記載が目立っていた。相談対応の中で活用して良い情報源の範囲を予め決めておくことは、相談の質を管理する上で非常に重要であるが、情報源の評価が業務として認められない、業務多忙のため時間を割くことができない等の状況が多くのがん相談支援センターで生じているのではないだろうか。

今回WSで10サイトの評価を行い、そのうち5サイトは「承認」または「条件付き承認」という結果となったが、それらのWEBサイト名を評価時の判断の根拠と共に相談員限定のシステムなどで公開していくことも有用であると考えられる。現在、施設内で情報源の評価が行われていない場合には、どの情報源からであれば情報提供しても良いかを判断する拠り所となると思われる。また現在、施設内で情報源の評価が行われている場合でも、その評価にかかる時間や労力の軽減につながると考えられる。

E. 結論

インターネットやSNSの普及により、様々ながん情報が氾濫している。その中には怪しい情報も含まれており、それらの情報に翻弄されてしまう患者や家族もいる。情報を見極める力を相談員が各自で磨き、日常業務の中（特に個別の患者・家族支援の場）で生かせるようにしていくことが必要である。そのためには、情報を見極める視点について学べる機会や場が必要であり、今回のような参加型WSが定期的開催されることは、その機会の創出という点で意味がある。

一方、参加型WSという形だと、限られた個人（受講した相談員）において一定の効果を上げることは期待できるものの、相談員全体から見た時の波及効果という意味では限定的とならざるを得ない。WSで得られた知見や合意をWSの場のみで終わらせるのではなく、より多くの相談員が活用できる形にしていくことも、また必要である。その具体例として、WSで議論された各WEBサイト評価の結果を相談員限定のシステムなどで公開していく等が考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

演習の目的：情報を見極めるための視点に沿ってサイト情報を吟味する体験を通し、情報を見極める力を養う。

事例 No	サイト名

- 上記サイトについて医療者の目線で評価し、その理由をお書きください。

	項目	評価 ○△×	医療者目線で評価し、理由を記載
1	運営主体は？誰が書いているか？ 運営団体は公的機関か、信頼できそうか 医療/健康に関する専門資格を有する者か その者は信頼できそうか（がん治療の専門職か、社会的地位だけで判断しないこと）		
2	情報の元は何？情報は公正？ 科学的根拠のある臨床試験結果に基づくか 比較試験＞症例報告＞専門家個人の意見 動物実験？分母（対象者数）は？ 効果と副作用等の記述に偏りはないか 誇張した表現はないか		
3	他の情報と比べてどうか？ 他の情報（源）や標準治療と比べてどうか 他の情報と比べた長所・短所の記載があるか		
4	対象および目的は何か？ 誰を対象にしているか サイトの目的は何か（営利？非営利？） 提供している医療情報は、広告やスポンサー表示と区別されているか		
5	いつ掲載（更新）された情報か？ 掲載日、最終更新日の記載があるか 情報は古くないか		
6	総合評価 ・ 総合的に信頼できる情報か、どのような点に留意して情報を見る必要があるか ・ がんと診断されたばかりの患者、家族だったらどのように評価するか、など ・		

事例No.

サイト名：

- なぜこのサイトを評価したいと思ったか
- このサイトを使いたい場面はどのような場面であったか
- 今回自分としてはこのサイトをどのように評価したか
- 相談員として、施設として、普段、このサイトの情報を相談者に伝えているか